

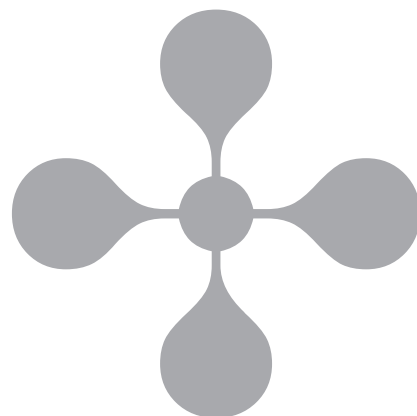
医療・介護老人保健施設における

臨地実習 マニュアル [臨床栄養学]

第6版

編著 寺本 房子
渡邊 早苗
松崎 政三

共著 足立香代子
荒木 順子
遠藤 陽子
恩田 理恵
金胎 芳子
高岸 和子
富岡加代子
中西 靖子
長浜 幸子
名倉 秀子
藤澤 早美
藤本真美子



建帛社
KENPAKUSHA

はじめに

臨地実習は管理栄養士養成のための実践教育科目であり、実践的能力を身に付けることができるよう、さまざまな施設で実習を行っている。2002（平成14）年4月1日に厚生労働省から出された「管理栄養士養成施設における臨地実習について」には、次の6項目掲げられている。

- (1) 養成期間の後半に行うことを原則とし、三、四学年において行うこと。
- (2) 前提となる授業を終了した後順次実施するようにすること。
- (3) 実習施設の状況を考慮した上、年間の教育計画にあらかじめ取り入れ、計画的に実施すること。
- (4) その教育効果をあげるため、原則として少数グループにより行うこと。
- (5) 実習施設の管理責任者および直接指導に当たる管理栄養士と実習内容等について十分協議の上臨地実習を行うこと。
- (6) 教育効果があがるよう総合演習など学内において十分に事前および事後評価を行う体制を整えること。

「臨床栄養学」実習の目的は、「多様な専門領域に関する基本となる能力」「知識・技能・態度および考え方の総合的能力」「チーム医療の重要性を理解し、他職種や患者・入所者とのコミュニケーションを円滑に進めるための能力」「保健・医療・福祉・介護システムの中での栄養・給食関連サービスのマネジメント能力」「健康の保持増進・疾病の一次、二次、三次予防のための栄養・食事指導（教育）能力」、これらを実践の場で学び、身に付けることにある。そのためには、何よりも医療提供施設・介護老人福祉施設で管理栄養士がどのような実践活動をしているかを学習する、つまり肌で感じ取ることが重要である。

したがって、本書の構成は、序章として臨地実習の目的やまとめ方、心構えなどを掲げ、第1章では医療施設の場合、第2章では介護老人保健施設の場合に分けて記載し、施設の特徴や実習すべき内容などについてまとめている。さらに、これらの施設で展開される“給食の運営”（第3章）や“給食経営管理”（第4章）についても包含した。第5章には実習に必要な知識として関連法規や臨床検査データ、薬物、カルテ用語なども掲載している。

医療人としての資質を身に付け、管理栄養士としての感性を養うには、先の施設で、患者や入所者を中心とした医療・介護の実際や他の専門職種の人々との連携について知ることが重要で、これらの施設での実習を通して、課題発見・解決、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うことができるようになるための実習マニュアルとして企画・刊行したものである。

今般、刊行後の各疾病のガイドラインの改定等に沿い、内容を更新し第4版とした。今後、教育養成側および施設側の諸先生のご批判をいただきながらより良いものにしていきたいと願っている。

2009年11月

編 著 者

第6版にあたって

本書は2005年の初版刊行以来、多くの管理栄養士養成校で臨地実習のテキストとしてお使いいただき、おかげさまで好評を得ることができました。2014年の「第5版」刊行後も、その都度増刷の度に小修正は重ねてきましたが、今年元号が令和となってさらに、「第6版」として刊行することとなりました。

第5版前刷（2019年2月）以降の各疾患ガイドラインの改定、また令和2年診療報酬の改定、「日本人の食事摂取基準（2020年版）」に沿い、内容を改めました。また、栄養ケアプロセス（NCP）について、栄養診断の用語の表を加えるなど、記述をあらたにしています。

これまでも増してご活用いただければ幸いです。

2020年9月

編著者

目 次

序 章

1. 臨地実習の目的・目標	2
(1) 臨地実習の目的	2
(2) 臨地実習の目標	2
2. 臨地実習のまとめと報告	4
(1) 実習のまとめ	4
(2) 実習の評価	4
(3) 事後教育（発表会・報告会の方法）	4
3. 臨地実習の心構え	5

1 医療施設の場合

1. 病者への医療従事者としての心構え	8
(1) 生命倫理と人権	8
(2) インフォームドコンセント	9
(3) クオリティ・オブ・ライフ（QOL）	9
(4) ターミナルケア	9
2. 医療施設のしくみ	10
(1) 医療施設とは	10
(2) 医療施設の組織と診療・診療支援部門の役割	10
(3) 栄養部門の役割	13
(4) 各種の委員会とその役割	14
(5) 病 診 連 携	18
3. 医療における管理栄養士の位置付け	18
(1) チーム医療	18
(2) クリニカルパス（クリティカルパス）と栄養管理	20
4. 栄養アセスメントを知る	22
(1) 栄養スクリーニング	22
(2) 栄養アセスメント	22
(3) 総 合 評 価	24
(4) 必要栄養量の決定	25
5. 栄養補給法の種類と役割を知る	26
(1) 経口栄養法	26
(2) 経腸栄養法	29
(3) 静脈栄養法	30

6. 治療食の調製と調理	31
(1) 咀嚼・嚥下障害，食欲不振者等への対応	31
(2) 治療食の調製（献立作成）	31
(3) 治療食調理	32
(4) オーダーから配食まで	32
7. 栄養教育のテクニックを学習する	33
(1) 目的と意義	33
(2) 基本原則	33
(3) 留意点	33
(4) 集団指導・個人相談（教育）のメリットとデメリット	33
(5) 栄養指導・相談（教育）の流れ	34
(6) 栄養指導・相談（教育）媒体	34
(7) カウンセリング技法の応用	35
(8) 栄養教育の評価	37
8. 栄養ケアを記録する	38
(1) 栄養ケアプロセス	38
(2) その他の記録	42
9. 主な疾患の概要と栄養管理	46
(1) 糖尿病	46
(2) 脂質異常症	47
(3) 高血圧	48
(4) 肝疾患	49
(5) 腎疾患	50
(6) 高齢者疾患（嚥下障害）	53
10. ベッドサイドを訪問する	55
(1) ベッドサイド訪問前の確認と準備	55
(2) ベッドサイド訪問	55
(3) ケーススタディ	56
11. 診療報酬	60
(1) 入院基本料算定時の栄養管理体制	60
(2) 栄養食事指導料	61
(3) 管理栄養士の参加が求められている多職種連携による加算	61
(4) 入院時食事療養費	61

2 介護老人保健施設の場合

1. 高齢者施設の特徴	64
2. 高齢者施設サービスの種類	64
3. 栄養管理の特徴とプロセス	64
(1) 栄養ケア・マネジメント	65
(2) 栄養管理のプロセス	65
4. 食事に対する施設の特徴と各スタッフの役割	66
(1) 各施設の実際	66
5. 高齢者の生理的特徴	69
6. 食事介助を体験する	69
7. おやつの役割	70
8. 管理栄養士・栄養士が行う栄養指導・相談（教育）	71
9. 介護保険制度により管理栄養士・栄養士に求められている役割	71
10. 栄養アセスメントで収集される情報	73
11. 栄養管理関連の各種加算	74

3 給食の運営

1. 「給食の運営」実習の目的と内容	76
2. 病院における実習	76
(1) 具体的な実習内容	76

4 給食経営管理

1. 実習の目的	86
2. 実習事項	86
(1) 医療施設における全般的業務	86
(2) 給食経営管理の知識や技術の実践	88
(3) 個人の栄養アセスメントに基づいた栄養管理の実際	88
(4) 食数管理	88
(5) 医療施設における給食のシステム	89
(6) 適時・適温配膳	89
(7) 衛生管理	89
(8) 危機管理	89
(9) 嗜好調査・摂取量調査の実施	92

5 実習に必要な知識

1. 関連法規	94
(1) 医療保険制度	94
(2) 健康増進法	95
(3) ISO:国際標準化機構	95
2. 臨床検査	95
(1) 臨床検査	96
(2) 生化学検査, 血液学的検査	96
3. 薬物	99
(1) 覚えるべき薬物の種類	99
(2) 薬物の副作用	101
(3) 食品と薬物の相互作用	101
4. カルテに使われている用語	117

序 章

1. 臨地実習の目的・目標

(1) 臨地実習の目的

「臨地実習」は管理栄養士の実践教育科目として、実践能力を身に付けるための重要な実習である。病院・介護老人保健施設などの医療提供施設における実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識および技術の統合を図り、管理栄養士として備えておくべき知識および技能を修得することが目的である。

- ① 管理栄養士が果たすべき多様な専門領域に関する基本となる能力を養うこと。
- ② 管理栄養士に必要とされる知識、技能、態度および考え方の総合的能力を養うこと。
- ③ チーム医療の重要性を理解し、他職種や患者とのコミュニケーションを円滑に進める能力を養うこと。
- ④ 公衆衛生を理解し、保健・医療・福祉・介護システムの中で、栄養・給食関連サービスのマネジメントを行うことができる能力を養うこと。
- ⑤ 健康の保持・増進、疾病の一次予防、二次予防、三次予防のための栄養食事指導・相談（教育）を行う能力を養うこと。

●「臨床栄養学」実習の目的

傷病者の病態や栄養状態に基づいた適正な栄養管理のあり方や給食経営管理について学ぶ。

- ① 栄養アセスメントに基づいた栄養ケアプランの作成・実施・評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解する。
- ② 栄養状態の評価・判定、さまざまな病態時の栄養補給と栄養教育のあり方、食品と医薬品との相互作用などについて、実践的に学ぶ。
- ③ 医療・介護保険制度におけるチーム医療や管理栄養士の役割について理解する。

(2) 臨地実習の目標

病院・介護老人保健施設などにおける栄養部門業務全般について、基本的な理解を深め、医療施設においては医療人としての、また介護老人保健施設においては福祉に携わる専門職としての資質を身に付け、管理栄養士としての感性を養うことが目標である。

- ① 外来・入院患者および入所者を対象とした栄養食事指導・相談（教育）の実施状況を学ぶ。
- ② 診療科やベッドサイドへの訪問、カルテ閲覧などを通して、患者・入所者の栄養問題が実際に存在していることを把握する。
- ③ 栄養アセスメント、ケアカンファレンス、栄養ケアプランの立案を学習する。
- ④ チーム医療、クリニカルパスなどの実際について学習する。
- ⑤ 医療スタッフの一員として、患者・入所者への対応やマナーなどについて指導を受けるとともに経験を積む。
- ⑥ 個別栄養管理の実際と部門業務のあり方等、実習施設の取り組みについて学習する。
- ⑦ 栄養食事指導・相談（教育）や栄養管理の報告書およびカルテの実際について学習する。
- ⑧ ケーススタディを体験する。
- ⑨ 給食経営管理の知識や技術が、医療の現場においてどのように生かされているかを体験する。
- ⑩ 個人の栄養アセスメントに基づき、フードサービスの観点からどのような工夫や技術が活用されているかを体験しながら学ぶ。

●「臨床栄養学」学習の目標

- ① 栄養不良のための栄養管理が必要な患者に気付く。
- ② 患者にとって食事がいかに大切で、楽しみなものかに気づき、入院時食事療養における QOL の重要性を認識する。
- ③ 人により食事に対する考え方や感じ方は多種多様であり、病状・状態も個々人で異なるため、求められる対応も多様である。患者個々への多様な栄養管理が必要であることを認識する。
- ④ 予定外や予想外の出来事や要求に柔軟に対応する必要がある、瞬時の状況判断、対応が求められることを理解する。
- ⑤ 医療における管理栄養士の役割を理解し、チーム医療における管理栄養士の専門性を認識する。
- ⑥ 入院から退院に至るまでの個々に変化する病状・栄養状態を把握し、栄養アセスメント・栄養ケアが重要であることを理解する。
- ⑦ 献立の立案から配膳に至る一連の作業（全般または一部）を体験学習する。
- ⑧ 医療機関では、食事オーダー管理が特に複雑であることから、どのような体制やシステムで運営されているかを見学し、体験学習する。
- ⑨ 医療機関では、食種が多く、個別に複雑な食事内容が要求される場合も少なくない。献立管理や調理作業上、どのように対応しているか学習する。
- ⑩ 適時・適温配膳についてどのような作業管理が実施され、機器や備品などにどのようなものが活用されているかをみる。
- ⑪ 栄養食事指導・相談（教育）や栄養管理業務を含め栄養部門の業務が安定して遂行されるためには、どのような工夫や合理化が行われてきたかを学ぶ。
- ⑫ 医療機関の衛生管理について、院内感染の予防、食中毒の予防などの観点から体験学習を行う。
- ⑬ 嗜好調査や摂食量の調査などを体験学習し、医療機関における栄養・食事の課題などを検討する。

●課題発見（気づき）・問題解決の具体的目標（仕事に対して）

- ① 業務上の問題点や課題があることに気付く
- ② 個々の多様性や変化の早さに気付く
- ③ 予定外や予想外の出来事や要求に対応する必要があることに気付く
- ④ 栄養管理を必要とする人が多いことに気付く
- ⑤ 問題点や課題への取り組みの重要性に気付く
- ⑥ 管理栄養士・栄養士業務の重要性に気付く

●専門的知識と技術の統合の具体的目標（学校で教わったさまざまな知識や技術を使う、観察する）

- ① 栄養部門業務の全体像の概略を把握する
- ② 喫食者の食事場面を観察する
- ③ 実際にどのような栄養管理が行われているかを学習する
- ④ 実践体験から栄養食事指導・相談（教育）に必要な能力とはどのようなものを学ぶ
- ⑤ 栄養評価・判定について実習する
- ⑥ 実例に接して、栄養ケアのプランニングを行う
- ⑦ マネジメントについて学び、他職種との連携を図る

2. 臨地実習のまとめと報告

(1) 実習のまとめ

実習施設においては、実習最終日に、実習ノートの記録や課題の記録などを基に、総合的・補足的な講義や討論会・反省会を行い、今までの学習で疑問に思ったことや質問を受けるので実習内容を整理しておく必要がある。学生は実習で得たこと、実習の感想、反省などを簡単な報告書にまとめ、実習終了後速やかに実習施設と学校に提出する。

(2) 実習の評価

一定の評価基準（実習時間数、実習態度、修得した知識と技術など）に則って、実習の評価が行われる。その後、学校における事後教育を経て、各教科目（臨床栄養学、給食の運営、給食経営管理論）の単位を修得する。

(3) 事後教育（発表会・報告会の方法）

栄養評価・判定に基づいた適正な栄養管理を行うためには、専門分野の各教科内容ごとに修得した知識、技能を統合する能力が必要とされる。したがって発表会や報告会の実施などにより専門分野の各教育内容を包含する。

発表会・報告会の形式はさまざまであるが、テーマごとに一定時間のグループワークを設け、レジメを作成し、口頭発表あるいはポスターでの発表や報告を行い、学内教員や臨地実習施設の指導者などからの講評を受ける機会とする。

テーマは、個々の臨地実習施設を評価するようなまとめ方ではなく、各学生が同じような課題を発見し、グループワークをする中で、問題の解決・具体的な提案・将来の方向性などについてまとめる。発表会・報告会などでは、最後に総合討論の時間を十分にとり、管理栄養士としての資質の涵養を図るよう、学生主導の討論会を実施するとより一層の教育効果がある。

さらに、発表会や報告会を終了した後、各学生の将来展望を含んだ発表会・報告会の反省会を実施することで、一連の臨地実習が終了する。

臨床栄養学実習のテーマ（例）

- ① 臨地実習施設の概要・特徴について
- ② チーム医療における管理栄養士の役割
 - ・ラウンドにおける管理栄養士の役割
 - ・カンファレンスにおける管理栄養士の役割
- ③ ベッドサイドにおける管理栄養士の役割
- ④ 集団栄養食事指導（教育）の実際
 - ・糖尿病教室
 - ・腎臓疾患教室
 - ・高血圧教室
 - ・妊婦教室 など
- ⑤ 個人栄養食事相談（教育）の実際
- ⑥ 食種と個別対応について
- ⑦ 症例のアセスメントと栄養治療
- ⑧ クリニカルパスにおける管理栄養士の役割
- ⑨ 栄養ケアマネジメントの実際
- ⑩ 緩和ケアにおける管理栄養士の役割
- ⑪ 他職種との連携について
- ⑫ 地域との連携について
- ⑬ 在宅訪問栄養食事相談（教育）の実際

給食の運営・給食経営管理論実習のテーマ（例）

- ① 栄養・給食部門、フードサービスの役割
- ② オーダリングシステムについて
- ③ 食数管理の実際
- ④ 作業管理・労務管理の実際
- ⑤ 特別食加算の実際
- ⑥ サイクルメニューの実際
- ⑦ イベントメニューの実際
- ⑧ 嗜好調査・摂取量について
- ⑨ 調理機器・設備管理の実際
- ⑩ 適温・適時給食の実際
- ⑪ 選択食メニューについて
- ⑫ 配膳システムと食堂利用について
- ⑬ 衛生管理と衛生教育の実際
- ⑭ 危機管理・HACCP について
- ⑮ 帳票類について

3. 臨地実習の心構え

臨地実習は学内での講義や実習とは異なり、それぞれの立場と責任をもって働いている中へ特別に入り込んで体験学習することになる。したがって、これらの人々に感謝の気持ちを表し、日常の会釈、挨拶を忘れない。実習場所では全力を尽くし、学生だからという甘い意識をもって実習にあたらなことが重要である。心構えの基本は相手の立場に立って対処することである。

●時間を守る

実習施設では分きざみで仕事が行なわれている場合が多い。したがって、時間厳守が望まれる。10分前には必ず実習場所に到着し、実習ができる態勢を整えておくよう心掛ける。

●遅刻・欠席の場合は必ず連絡をする

所定の時刻に到着できない場合、あるいは、欠席する場合は必ず実習指導者、または関係者に事前に連絡を行う。

●挨拶をする

朝の挨拶、終業後の挨拶は、実習を円滑に行ううえで、必要不可欠なことである。明るく、笑顔で、はっきりと「おはようございます」「ありがとうございました。お先に失礼します」と挨拶をする。

また多少疲れていても、壁によりかかったり、腰掛けたり、しゃがんだりはずつしまなければならない。また、待合所等の椅子にむやみに腰掛けないこと。

●積極的な参加を心掛ける

予定の実習が終わっても、時間内においては「何かさせてもらえませんか」といった態度で積極的に参加する。

●実習中私語は慎む

実習中、特に患者や外部の人がいるときは、私語やむだ話をしてはならない。

●服装、身だしなみを整える

実習施設により若干異なる。以下はおおむね共通していると思われる内容である。これを参考に実習施設へ問い合わせて細部まで確認しておく。

- ① 白衣を着用する。白衣の下は私服も清潔感があり、華美でないものを着用する。
 - ・女子はひざ丈くらいのスカート、男子はズボンとし、ジーンズは好ましくない。ただし、厨房内作業時のジャージは可とする。
 - ・病棟での実習時はストッキング(肌色に近いもの)を着用し、カラーソックス、生足はつつしむ。
- ② 長い髪はきちんと束ねる。毛髪は染色しないこと。
- ③ 爪は常に短く切り、マニキュア、指輪などもはずす。
- ④ ピアス、イヤリングは装着しない。香水はつけないこと。

●医療人としての心構えをもつ

個人のプライバシーにかかわる情報を得た場合、絶対他人へは漏らさないことが大原則である(守秘義務)。以下の点に注意する。

- ① 病名や治療・介護の内容は、関係者以外に聞こえるような状況では決して口にしない。廊下やエレベーター内での不要な会話はしない。
- ② 実習するうえで必要となる情報は、ほとんどが個人情報である。カルテやコンピュータから得た情報は人の目に触れないよう厳重に管理する。
- ③ 院内の掲示、食事箋などの資料を、スマートフォン、携帯電話等で撮影しない。撮影する場合は、許可をとる。
- ④ レポートを書く際には、IDや氏名は必ず匿名化する。
- ⑤ 見舞い客と思われる人から入院患者(入所者)の部屋を訪ねられることが予想されるが、知っているとしてもすぐに答えない。答えてよいかを職員に確認する。

●電話の受け方とかけ方

電話は日常業務と直接関係があるので、次のことがらをよく心得ておく。

- ① よく使う電話番号やファクシミリ番号はあらかじめ覚えておく。
- ② 長電話をしないよう簡潔に行う。
- ③ かける場合

相手の電話番号をよく確かめること。「もしもし、こちらは栄養部の実習生の〇〇ですが、〇〇先生はいらっしゃいますか」という具合にこちらが誰であるかを相手方に知らせ、自分が目的とする所へかかったかを確かめて話に入る。もし間違った場合は失礼のないようにていねいにお詫びをする。

- ④ 受ける場合

「ハイ、栄養部の実習生の〇〇でございます」という具合に相手が目的とした場所であることを告げる。同時に、自分が実習生であることを相手に伝え、判断に困るようなときは担当者と代わる。また用件が済んだら相手方が受話器を切ったのを確認してからこちらも切る。これは先方は用件があってかけてきたのであるから、十分に用件が完了したのかどうかの確認をすることでもある。

- ⑤ 指名した人が不在の場合

相手が指名した人が不在の場合、「ハイ、只今〇〇先生は席を空けておられますが…」または「只今〇〇先生は〇〇科へ行かれています…」戻られましたらこちらからお電話を差し上げましょうか、などと言い、その人に必ずメモを渡す。メモには、用件のほか受けた時刻と相手の名前を記す。指名した人が不在か否か不明で相手を待たせた場合、「大変お待たせいたしました」の一言を忘れないこと。

●エレベーター利用のマナーを身に付ける（大学と同じ気持ちでは乗らないこと）

- ① 常に患者、入所者を優先する。
- ② 率先してエレベーターの運転を受けもつ。
- ③ 乗り降りの際、親切に安全な乗り降りを誘導する。
- ④ 乗り降りの際、会釈や挨拶を交わすよう気を配る。
- ⑤ 寝台車・車椅子には率先して場所を譲る。
- ⑥ エレベーターの中で、寝台車・車椅子の患者や入所者を無遠慮に見下ろさない。
- ⑦ エレベーターの中で不必要な会話はしない。
- ⑧ できるだけ階段を使う。
- ⑨ エレベーターを待つ間、ソファや椅子に座らない。

●実習室あるいは控室を利用するうえで注意したいこと

- ① 整理、整頓を心掛け、机、椅子等移動した場合は必ず元の状態に復元する。
- ② 不必要な会話はしない。
- ③ 掃除を心掛け、消しゴムの消しやすさや紙ゴミなどの処理はそのつど責任をもって行う。
- ④ 実習中はスマートフォンおよび携帯電話の電源を切る。
- ⑤ 実習先では禁煙を守る。